



No.27 2019.12.11

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

“コミュニティ・スクール” オープン研修会 松が丘サミットが開催されました

こんな流れです

12月4日（木）に松が丘小学校で“コミュニティ・スクール”オープン研修会として、松が丘サミットが開催されました。松が丘サミットは今回で2回目となります。その様子を紹介させていただきます。



○第1部修学旅行プレゼンテーションに続き、第2部松が丘サミットの始まりです。

校長先生の「はじめの言葉」に続き、児童長からの「楽学交祭」についてのお願いです。

「楽学交祭」は、児童長が児童会役員選挙のときに「み

んなで交流しながら楽しめるイベントを」と公約にあげていたものを、児童会で話し合い、自分たちだけでなく、保護者の方や、地域の方にも呼びかけ、趣味の作品などを発表する場として参加してもらえたらと計画したものです。公約を実現するために、児童会で何度も話し合い、クラスにも持ち帰ってプランを練り上げたものだけに、子どもたちが達成感を感じられるイベントになったと思っています。見る側の参加だけでなく、発表する側でも多数参加していただけたら面白いなと思います。



○引き続き7つのプロジェクトのプロジェクトリーダーからの提案です。7つのプロジェクトは、子どもたちが地域の方にアンケートをお願いし、その結果から松が丘のまちに今必要なことを考え、次の7つに絞りこみ、それぞれのプロジェクトに分か

れ実施方法等を練ってきたものです。

- ①地域の方と一緒に清掃活動・草抜き
- ②花を植える活動
- ③高齢者宅を訪問し、買い物のお手伝いをしたり、お話をしたりする活動
- ④高齢者施設を訪問し、高齢者の方と交流する活動
- ⑤校区内のイベントに参加したり、必要に応じてお手伝いしたりする活動
- ⑥高齢者宅のゴミ出し
- ⑦図書室開放

○プロジェクトリーダーからの提案の後は、地域ごとに分かれての検討です。



地区に分かれての話し合いが進むにつれ、離れて座っていたのが大人も子どもも真ん中にギュッとよって話し合いを進めているのにびっくりです。地域の方、保護者の方から、子どもたちのプロジェクト提案に対して鋭い意見に対しても、真剣に耳を傾け、自分たちの考えの足りなかったところを補おうと逆に質問したりと、話の内容がどんどん深まっていきました。

この松が丘サミットの取組から、何が見えてくるのでしょうか？松が丘サミットが大きな提案です。

この学習は学校用語では「教科横断的単元」(別紙単元構想図参考)です。教師にとってもこれからの時代の学びへのチャレンジです。子どもたちを信じ・任せて学びのフィールドを地域に広げ、子どもたちの考えたアンケートを地域に配り、その結果をもとに子どもたちが分析しプロジェクト項目を教師のフィルターかけず、保護者・地域の方との話し合いの中でブラッシングしていくという、答えを創っていく学びへのチャレンジだと考えます。その結果として開かれたのは

- ① 子どもたちの地域を見る目
→自分たちでアンケートを作り、配り、分析しプロジェクトを考えた中で当事者に。
- ② 学校の限界
→リアルな学びへの道。(社会とつながる道)
- ③ 学校への意識
→保護者・地域住民の学校への期待。

といったものが浮かんできます。まだ他にもあると思いますが、何よりもサミットでの世代を超えた話し合いが、これからの地域づくりへの道が開かれたのではと考えます。

本所コミュニティ・スクール担当指導主事報告～「松が丘サミット」に参加して～

「松が丘のために…」これは、55分の話し合いの中で、子どもたちが最も多く口にした言葉でした。自分たちが暮らす地域のことを真に考えている子どもたちの姿に心打たれました。

地域の方がおよそ10名、6年生の児童がおよそ6名集まり、一つのテーブルを囲んでサミットは始

児童：高齢者宅を訪問し、買い物のお手伝いをしたり、そのときお話をしたりすることができないかなと考えています。僕たちが松が丘のためにできることのひとつだと思います。どうですか。

地域の方：う～ん。難しいちゃうかな。手伝ってもらって嬉しい人もいれば怪訝そうな顔をする人もおるんちゃうかな。その辺は難しいで。

児童：困っていて僕たちに助けてほしい人っているかわかりますか。

地域の方：民生委員の人に聞いたらわかるかな…。でも急に訪ねても困るで！

児童：僕たちはアンケートも作ろうと思っているので、アンケートをとって手伝ってほしい人を集めたらどうですか。

地域の人：それは、いいな。じゃあ、回覧板にアンケートを入れて回そか。

児童：(笑顔で)ありがとうございます。

地域の人：買い物手伝って、話をしたいってさっき言ってくれたけど、私たちは地域ボランティアでサロンをしているから、そこに若い人たちにもきてもらってお話するっていうのはどう？

児童：若い人ってだれですか。

地域の人：(大笑い) あんたらのことやん！まあ、でも多分喜んでくれると思うで！でもな、ここにいない人にも君らのしたいことがしっかり伝わるようなアンケートを作ってな。そこはほんとはがんばって作ってな！

児童：はい。わかりました。6年生全体でも話し合っただけで決めたいと思います。

まりました。テーブルは全部で8つあり、ランチルームはとても賑やかでした。私は最初、にぎやかな雰囲気の中でそれとなく子どもの提案に耳を傾けていました。しかし、地域の方が子どもの提案に対してどのような反応を示しているのか気になってきました。テーブルを囲んでいる輪に入って話し合いを聴くと楽しくて仕方がなくなってきました。

上記の会話は一部分ですが、教室では実現ができないと思えるくらい「活きた話し合い」がなされていました。このような話し合いの中で6年生の児童は、自分たちが練り上げたアイデアを地域の方に提案し、「自分たちの『やりたい』と地域の方の『してほしい』が必ずしも一致しないこと」を学んだと解釈しました。児童は地域の方との話し合いを通して、児童は自分たちのアイデアを修正し、地域の方の求めに応じてよりよく刷新していこうとする姿が見られました。

今、資質・能力の育成が教育活動の大きな柱となっています。「松が丘サミット」を見せていただき、コミュニティ・スクールによって芽生える子どもの資質・能力があるのではないかと考えました。私たちが学校で与える学習環境に加え、子どもたちの学びの場を地域に置くことで、子どもに潜んでいる資質・能力を大きく発揮・伸長できるのではないかと実感しました。「松が丘サミット」を見せていただき、コミュニティ・スクールの価値を再認識しました。

“コミュニティ・スクール”オープン研修会参加者より

(教育委員会指導主事より)

正直、子どもたちの真剣な目、前向きな姿勢にとっても驚きでした。主体的・対話的な学びが目の前で繰り広げられていました。子どもに教え導いていく教師という立場からの変革を突き付けられているようでした。

子どもの意見や提案を真剣に聞き、そのことが実行可能かどうかを真剣に回答する地域の方や保護者の姿勢に、感心すると同時に子どもの満足感とコミュニケーション力、考える力につながっているのだと思いました。そこに、「子どもの言っていることだから・・・」という視点であれば、子どももそれ

を見抜きますし、あそこまで続かないのではないのでしょうか。

子どもたちがしようとしていることを、あの場で表明することで、学校が地域をどのように捉えているのか？そういったことを伝える場ともなり、より一層信頼関係を構築し、つながりを強くしているのだと感じました。

ただ、一番すごいと思ったのは、話し合いの中心にいたのは、やはり「子ども」だということです。教育の原点である、子どもを大切にすることというのを、まさに実行していました。参観して、元気をもらいました。今後の教育の在り方として重要な視点をいただき、ありがとうございました。

(市内小学校教員)

子どもが地域のことを考え、より良くしていこうとする生の姿を見せていただきました。同じテーブルに地域の方、保護者の方がいたことが、本当に大きなことだと思いました。また、子どもが地域のことを考え、かかわろうとする必然性がしっかりと組まれているようにも感じました。

(市内中学校教員)

初めてコミュニティ・スクールに対しての研修へ参加しました。とても驚くことばかりが次々と目の前で起こっていてスゴイという言葉です。子どもが生き生きとプレゼンを行っている姿、司会をしている姿、まとめをしている姿等は、中学校ではみることができない姿なので、小学校での取組を見習わなければいけないことばかりです。地域の方が学校に足を運んでくださり、教師と一緒に子どもの育ちを考えてくださっていることが驚きで、来年度からの課題は山積みです。

(A 小学校学校運営協議会委員)

地域ごとに児童と地域住民がグループに分かれて大変良かったと思う。弱りつつある地域力の再生に有効だと思います。各グループの話し合いもよく、児童にとっても、地域にとっても良いことだと感じた。個人的には松が丘プロジェクトを2/3~3/4程度に絞った方が良かったのかもしれない。

コミュニティ・スクールの可能性を感じた研修会でした。もう少し、行政・地域・福祉・環境関係者や先生方に参加してほしかった。

(B 小学校学校運営協議会委員)

6年生の2人の担任の先生の研究へつながっていることが素晴らしい。まずは地域と子どもたちとの話し合いが出来たことがとてもよいと思います。先生に負担なく、更に充実したもの(教育指導)に仕上げていることに感動しました。

(関係機関職員)

根拠をしっかりと示し、地域住民とともに考えていく姿勢は非常に素晴らしいと感じました。時間をかけ取り組んでいるのも見受けられ、先生方のバックアップなしでは行えなかったと思います。子どもたちを「信じて 任せて 支える」という理念に感動しました。

(関係機関職員)

質疑応答を聞きながら、「地域にいかに関わりをつくれるか」だなと感じた。まち協を中心に地域の関心層をどう巻き込んでいくかという議論が続いているが、中コミの市民講座の講師、生涯学習センターのサークル・市民団体の市民講師など、何かやってみたい人が関われる人がつながっていくことが理想だと感じた。